

子宮頸がん検診で HPV 検査を併用した精密検査の有用性について

公益財団法人福島県保健衛生協会¹⁾

公立岩瀬病院²⁾、医療法人徳洲会羽生総合病院³⁾

公立大学法人福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座⁴⁾

○栗田和香子(CT)¹⁾、斎藤美穂(CT)¹⁾、羽野健汰(CT)¹⁾、塚原孝(CT)¹⁾、
寅磐亮子(CT)¹⁾、吉田晴美(CT)¹⁾、鈴木御幸(CT)¹⁾、石橋真輝帆(MD)²⁾、
森村豊(MD)³⁾、古川茂宜(MD)⁴⁾、添田周(MD)⁴⁾、渡辺尚文(MD)⁴⁾、藤森敬也(MD)⁴⁾

【目的】

子宮頸がん検診の細胞診異常例において、精密検査時の HPV 検査併用の有用性を検討した。

【対象】

2015～2018 (H27～30) 年度の 4 年間に、初回精密検査において HPV 検査 (HC2) を施行し、組織診結果と照合できた検診時 ASC-H : 251 例、LSIL : 412 例、HSIL : 260 例を対象とした。

【方法】

検診時判定別、HPV 検査結果別について CIN2 以上 (以下 \geq CIN2) の病変検出の相対危険率を後方視的に分析した。また、検診時年齢を 40 歳未満と 40 歳以上に分け同様に分析した。組織診は検診年度から 3 年間の最強診断結果、細胞診は直接塗抹法である。

【結果】

ASC-H の HPV 陽性は 151 例 (60.2%)、陰性は 100 例 (39.8%)、そのうち \geq CIN2 はそれぞれ 76 例 (50.3%)、25 例 (25.0%) であり、陽性例において有意に \geq CIN2 が検出された (相対危険率 2.012)。 \geq CIN3 においても陽性例から 38 例 (25.2%)、陰性例から 10 例 (10.0%) 検出され、相対危険率が 2.519 で有意差がみられた。

LSIL は、 \geq CIN2 が HPV 陽性 312 例中 67 例 (21.5%)、陰性 100 例中 11 例 (11.0%) 認められ陽性例が有意に高かった (相対危険率 1.953)。

HSIL は、 \geq CIN2 が HPV 陽性 208 例中 150 例 (72.1%)、陰性 52 例中 34 例 (65.4%) であり、 \geq CIN3 は陽性例から 88 例 (42.3%)、陰性例から 19 例 (36.5%) 検出された。

HSIL で HPV 検査結果別による病変検出に差はみられなかった。

年齢に分けた結果に差は認められなかった。

【まとめ】

ASC-H、LSIL に HPV 陽性群の CIN2 以上の検出率が高かった。HSIL は HPV 検査結果に関係なく CIN2 以上の病変が確認された。細胞診を起点とする子宮頸がん検診において、組織診断困難な症例は、精密検査に HPV 検査を取り入れた経過観察を考慮する必要がある。